

テーマは、「静岡発！世界とつながる多文化共生」。来場者数は14,000人

今年で、4回目を迎える「異文化コミュニケーション体験フェア」が、昨年の11月18日（日）に、青葉シンボルロード及びふしみやビルにて開催されました。来場者数は約14,000人。イベント開始から終了まで、客足が途絶えることはありませんでした。パレスチナ自治区出身者の文化紹介、コロンビアの民族舞踊など初参加の企画もあり、いつもにもまして国際色豊かな内容となり、世界とつながるきっかけとなるイベントとなりました。



ステージ初参加のコロンビア民族舞踊

外国人、親子連れの来訪者の増加

今回は外国人、そして親子連れの来訪者が数多く見られました。自国の音楽やダンスが披露される時間帯になると、出演者を応援するかのように、その国の出身者たちがステージ付近に集まり、会場の雰囲気はどんどん盛り上がっていきました。また、リトルワールドブースや団体紹介のブースでは、来場者が長時間滞在し、交流していきました。



静岡ムスリム協会の活動紹介ブース



リトルワールドブースにて、ニュージーランドの文化紹介

フェアを支える運営委員

異文化コミュニケーション体験フェアは、一般市民からなる運営委員によって企画・運営されています。仕事や勉強を終えた社会人や学生の方が、毎月1回集まって企画を練っています。少しずつですが、留学生の方も参加してくれるようになりました。この市民参画というスタイルが、異文化コミュニケーション体験フェアの大きな原動力となっています。今回は、運営委員会に大学生の頃から参加され、社会人になった今も活動を続けてくれている委員の方にお話を伺いました。



意見を交わす委員の皆さん

異文化コミュニケーション体験フェア運営委員

体験談：松井 杏美（まつい あみ）さん

私は元々、このイベントに遊びにきており、各ブースで様々な地域の文化や習慣を教えてもらっていました。平成29年度からは運営委員として、リトルワールドという異文化体験のブースの企画を担当しています。このフェアの特徴は、対話を楽しむところですね。そしてその対話により、講師である外国人と来場者は、お互いの文化に対する理解を深めることができます。私は運営委員として、この文化の相互理解を図るフェアの開催に関わることをとても楽しみにしています。異文化コミュニケーション体験フェアに遊びに来たことをきっかけに、普段の生活でも、異なる文化や習慣を楽しみながら学ぶ方が増えると嬉しいです。



設営準備中の運営委員とリトルワールドスタッフ（左から2番目が松井さん）